Honzō Komoku Kibun
Part 6

本草綱目紀聞

水谷豊文著　神谷三圓手寫

菜部・果類等　彩色圖入

六冊

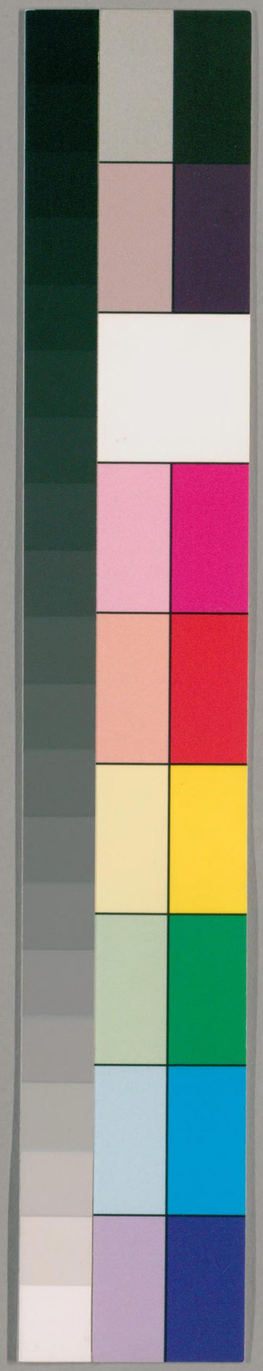
国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21

ガラス使用

Honzō Komoku Kibun
vol. 21

W391
21

綱目啓蒙
巻廿三
二十三
上



国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

W391
21

89W87983

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

菜之二　柔滑部上

菠薐　一　蕹菜　二　菾菜　三
東風菜　四　薺菜　五　菥蓂　六
繁縷　七　雞腸草　八　苜蓿　九
莧　十　馬齒莧　十一　苦菜　十二
白苣　十三　萵苣　十四　水苦蕒　十五
翻白草　十六　仙人杖草　十七　蒲公英　十八
黄瓜菜　十九　生瓜菜　二十　落葵　廿一
蕺　廿二

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ハウレンサウ

菠斯草 群芳譜
婆麥 撫州府志
婆稜 同上
菠稜菜 同上
頗稜 通雅

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

鼠根菜 常熟縣志
鸚鵡菜 廣群芳譜
波斯草 綱目

菴根菜 物理小識
婆菱 撫州府志
赤根菜

菠薐

雨花菜 汝南圃史
釋名 菠菜 綱目

春秋多ニ種ヲ下スソノ葉一根ニ叢生ス形未タ尖リ本ノ左右ニ各一尖アリテ莖ニ
小鬚葉アリ其莖ニツク葉ハ三角ノ矢鏃ノ形ノ如シ故ニ群芳譜ニ劉屏山ノ詩
ヲ引テ金鏃因形製トモ莖ノ高サ一二尺葉互生ス淡緑色四月枝梢ゴトニ穗ヲナシ
花ヲ開ク多ク簇リテ甜菜ノ花穗ノ如シ蕾ハ赤色開ケバ緑色白邊大サ一分許
実ヲ結ブ大サ二分許両角或三角ニ刺アリテ
蔆菓子ノ如ク色白シ実熟メ苗根共ニ枯
○唐會要曰ク尼婆羅國(ネパール)波棱(ホウレン)トモ是ヲ以テ
○延寶ノ比ノ淨瑠理本ニホウレンサウヲ ワウヒトモ
○婦人鉄醬(ビ)ヲツケテ彼ホウレンサウヲ食ベカラズ
○ホクロ ホウレンサウ生薬黒ヤキソクヒニヲヨシ
○痘後ニ糞田道ニテホウレン草ヲ食テ死タル一アリ
秋彼岸ニ蒔

薩菜

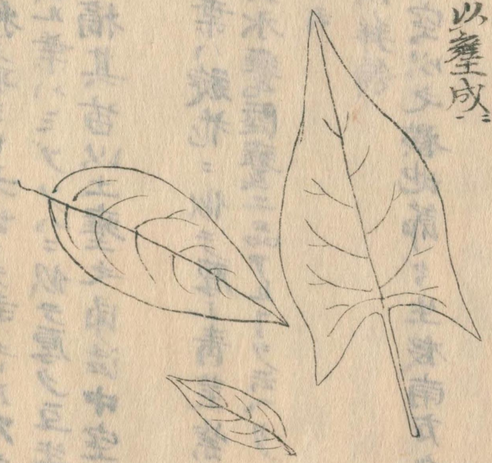
ハゼチイヘン 中山諸

龍鬚菜 清異錄 同名アリ

武菜 福州府志

甕菜 食物本草

釋名 薩與甕同此菜推以甕成故謂之甕



国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

蘘荷　和産未詳

寛政元酉年夏福州ヨリ種ヲ取ヨセ大坂ニテ栽タレ共不育未繁茂故ニ形状不分明蔓生ニテ夏茂ル葉ハミゾソハニ似テ厚ク互生ナリ根鬚根許リ正字通曰蘘茅蔓生花白摘其苗以土壅之即活中空而脆自南舶以種来因名能解野萄毒

苗形甘藷ニ似テ根ニ塊ナシ葉ハ薤花ニ似テ厚ク青莖紫莖ノ二種アリ紫莖ノモノヲ上トスト云正字通ニハ水蘘陸蘘二品アルヿヲ云ヘリ　正字通ニ水ニ種レバ水蘘陸ニ種レバ陸蘘トヿ

○大坂蕃薗自薩州侯拝領

逢原　蘘茅幹柔如蔓而中空以之横地節々生根南方之奇蔬也

成形 宇牟通安伊 沖縄即蕹菜の唐音也清人の音にてはウニツーイと云がてこしろの 蚧ハ彼の韻ある故に此の音も同じ訛る所ありそれは蕹菜を蔓菜と呼び

て蕃杏は濱紫といへり

蕹菜 嘉祐〇 金薯傳習録云蕹菜本東夷古倫國番船以甕盛之蔓生白茎中虚摘其苗不拘長短以土蓋之輙活秋末取其老茎移藏於土之高燥者為来種亦有子種者布蔓於夏随来随生 按に綱目南産志等蕹菜を出さず只傳習録所載を挙し

この菜ハ仲縄人清の乾隆此始福建より獲て中山に培殖しその也水にも旱にも生し水にハ蔓のやうに水面に浮ぶ遂に是を本藩に上せり而ども極て寒気を畏るゝが故に生育かたし凡栽の法ハ地暖なるを相てこの茎の長さとは甕中に盛て根もあるに至ひ南面の丘陵或ハ屋簷の下燥なる沙土の地を穿て深三尺許にして之を埋むべし

氣味涼淡甘平毒なし 煙毒を解き薬熱を忌む血色を潤し又生なるべし鳩糊して兒童の頭面の諸瘡に傅て已ゆあせり 傳習録

フダンサウ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

春不老 琢玉雜字君達夏種日春不老

花夏至前後

實大暑ノ比熟

菾菜 菾音恬 ○嘉祐

釋名 君達菜

甜菜 楊州府志

厚葉菜 泉州府志

冬夏菾菜 物理小識

莙薘菜 食物本草會纂

飲膳正要云莙薘兒即莙薘根也

春秋分ニ種ヲ下ス葉ハ圓ニシテ尖リ至テ厚ク淡緑色四時食フベシ故ニ不断ノ名アリ夏ノ初茎高サ二三尺花多ク葉間ニ攢リテ菠薐菜ノ花ニ似タリ実ハ呉茱萸ノ如ク黄白色堅キ尖リアリ

一種サンゴヂサトモ云アリ茎葉紅紫色ナリ救荒本草ノ火焔菜ナリ

○フダンサウノ茎ヲヤキ灰トシアクニシテ衣ヲ洗ニ垢ヨク落ルモノナリ

○合食禁 菾菜ニ芥 菾菜ニ胡椒 フダン草ノカラシアヘ食テ死タルモノアルヨシ フダンサウハ血ヲウカスモノナリ

成形 フダンサウ 布通久佐 本草和名

不断艸 種ヲ蒔継ば常に萌茂より故に此名あり

番名 ゲメーンヘーテ

此苗ハ高三尺許茎の状菥蓂に似て細稜あり夏盛にして冬枯る春社日に種を下し或は舊菜よりも生ずるもの有り葉の色青白く白菘のおさに短く小し夏花さき実をむすぶ茱萸棣の如くにして軽虚土黄色なり内に細子あり根ハ白し ○渝煮て醋醬をて浸し物として葉出ルモノ東國に多し但土臭て食品に宜しからず此灰汁もて衣服の織垢を洗ふべし能脱るなり氣味甘く性寒滑にして毒なし 胡椒と同く食ふ亦からず

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

サンゴジユナ
シヤクナ
ウズセキダイコン 日
インゲンナ 同
アカナ
シウキナ 蝦夷
テロートヘイト 和蘭

朝鮮ナ
トウダイコン 播州
ミシキダイコン 参州
ウツダイコン 同
ミシキ子 名古ヤ
ロートデーテ 同
ベーテ ドドニウス

朝鮮ダイコン
アカヂサ 同
シヤムロダイコン 大和本草
ロートベート 蛮名
サンゴナ
カラス（硝子） コロイト（草） 此草ヲ以硝子ヲ製スルニ用ト云

菾菜ノ一種 和蘭産
火焰菜 救荒本草
フダンサウノ形ニシテ茎及葉脈紅紫色ナル者ナリ花実モ菾菜ニ異ナラズ其根直ニシテ小蘿蔔ノ如ク紅白ノマキタルスヂアリ故ニウヅ及ニシキサウノ名アリ食用ニス

成形 唐菜(カラナ) 多識編
赤苣(アカチサ) 字音を轉きしこ
唐苣(タウケサ)
珊瑚珠菜
波字禮牟草(ハウレムサウ) 和字通例。帰菠薐菜の

此菜歳々に再種すべし正二月に蒔るハ三四月に蔬となし七八月に蒔るハ冬食に備ふべし苗の時ハ一乃尖葉を出し又両の尖葉を發け皆鏃の形なり茎中より空けて根と茎に近きものは色赤くして紫蘿蔔の如し実なると花さくと各別にして又雌雄あり雌あるが実をつくる也性味菾菜と相似て柔美なるハ之に勝れり熱湯に浸して食ひ或ハ日に乾て蓄ふべし但圖經所載といへる稍差へり蓋天竺より漢國に来り遂に本邦にも入たれば今ハ形味も轉變せるなるべし氣味甘苦く性寒にして小毒あり五倍子を反けば故に婦人鉄醤染著て帰時に此ものを食へば毒に中るといふハ五倍子の末を用ふる故なり

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

シラヤセギク
ヤセゴボウ
ニガヨメナ　伊豫玄山

才志ナ　備前
ヤセアサ　駿州今宮
ハツセキ　能登

ウラジロキク　加州
大坂ヒヨニ　岡林清達所藏ノ畫ニ

東風菜
釋名　冬風　此菜先春而生故有東風之號一作冬風言得冬氣也

東風菜　正字通

蕷及筆頭菜ニモ東風菜ノ名アリ此草山中ニ多シ春宿根ヨリ苗ヲ生ス葉ハ蕗菜ニ似テ長大ニシテ鋸歯アリ大ナル者ハ長サ六寸根上ニ叢生ス夏莖ヲ抽テ秋ニ至テ高サ二五尺小葉互生ス莖頭ニ多ク枝ヲ分チ秋分前後花ヲ開ク白色黄心大サ小銭ノ如シ形雞兒腸花ノ如シ小ク辨少シ秋後苗枯シ根ハ腐ヒズ

シラヤマハギク

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ナヅナ

ミラサハギク

東風菜ノ一種

ヲランダミラン江戸

ミナノキク

木ノ部

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21

ガラス使用

ナヅナ　バチクサ 古歌　メナツナ 奥州
シヤミセニグサ 木曽奈良井　スモトリグサ 越後　ペンペングサ 江戸
ビンビングサ 讃州　ムシツリグサ 仙臺　カヒトリグサ 豊後
ミヤミセニバナ 木曽荻原　スウキンバ 木曽黒川　ノサ子ジリモチ 江州上野
カラスノ火打　ナツナノクサ 夏無 春生ヘ夏カル、故ニナツナ ヲナヅナト云　ヨメガフクロ 古名
バツノキニチヤク 尾ー　ヂヾノキニチヤク 同　スヾメノダラコ 津軽 ダラコハ荷包ノ一テヿ
テスケノニスコロイート　テスケンシコロイ　ボルセニスコロイト

薺
東風菜 古今醫統　薺菜 訓蒙字會　薺菜兒 救荒野譜
那耳 鄉茅本草　公簽菜 同上　班菜 函史
野菜 食物本草會纂　蘆 玉字通 根ノ名 一註ニ蘆ハ薺根也
釋名 護生草 薺生ヿ済く我謂之薺 釈家取其茎作挑燈杖 可避蚊蚋 謂之護生草
輔仁 薺鵝薺 小草　竈薺 竈食其葉 故以名之　胡薺 葉尖長
一名老薺 已上崔禹　一名猗薺　一名䓴 音典 已上 兼名苑

秋時子生ス其苗地ニ就テ叢生ス葉ハ蒲公英ニ似テ岐コトニ一角アリ又多岐ナル者アリ又岐ナクノ水蘇菜ノ葉ノ如キ者アリ正二月茎ヲ抽テ花ヲ生ス暖地ニテハ十二月ニ花ヲ開ク穂長ク花小ク四瓣白色後莢ヲ結フ三弦ノ撥ノ形ノ如ニ熟シテ苗根共ニ枯ル河邊ノ沙地ニ生ニ最瘠小ナル者ヲ沙薺ト云此集解ニ其最細小者名沙薺ト云

国産須知

主治根葉共ニ眼科ニ用ユ亦小便不利ニ實ヲ用ルヿ採薬使記ニノス

冬ヨリ苗アリ啓蟄後ヨリ花ヲ開キ穀雨前後ニ至ル

○赤痢ニ　ナヅナ霜

成形　ナツナ　キハサ 新撰字鏡　メナツナ　ヲナツナ 二名ハ大ナツナニ對ノ云フ

バチクサ　ムミツリクサ　カニトリクサ　スミウトリクサ　蕃名テヌケニス

ナヅナトハ撫菜ニヤ撫子ノ如ク憐て名しり又苗出名の意りや

とも云 或説にナツナとハ秋冬より春に之あり夏枯をまて夏至の下暑とあり

○東國西肥の俗に此草を採り燈臺に節りて夏虫の油燈に入を避るといふ時珍の説に釈家此茶をとり挑灯檠に作りて蚊蟻を避るをもて護生茶と名くとあるは是と同し

○主治肝を利し中を利し目を明らかにす ○根葉共に黒焼にして飲ときは赤白痢を治 本朝経驗 ○眼卒に痛時薺の根を淡き絞りて常に目に入へし 萬安方

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21
ガラス使用

オホナヅナ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

オホナヅナ
オナヅナ
オトコナヅナ

菥蓂、 熒冥 菜録 蔑菥 本經

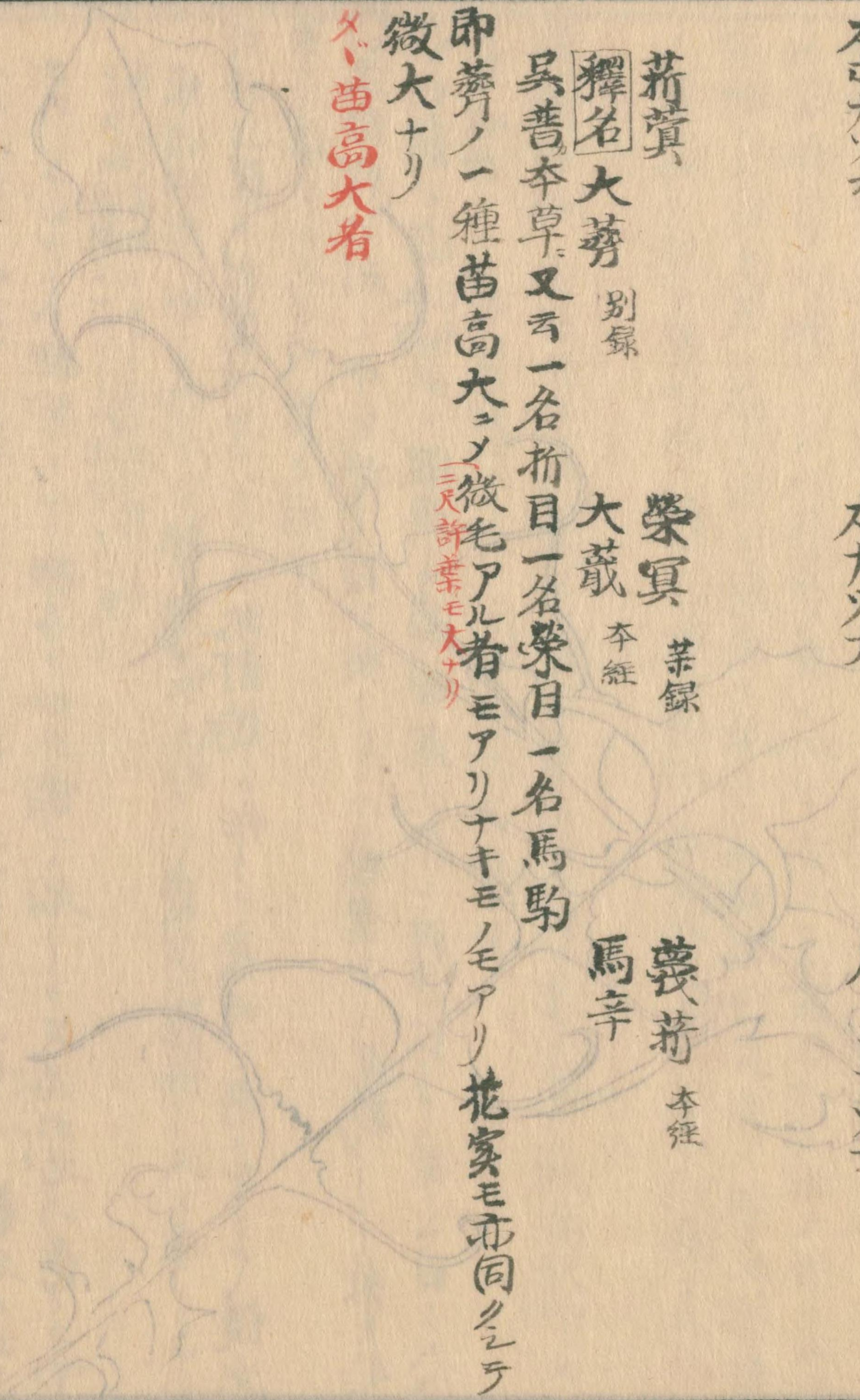
釋名 大薺 別録 大蕺 本經 馬辛

呉普本草ニ又云一名析目一名榮目一名馬駒

即薺ノ一種苗高大ニシテ（三尺許葉モ大ナリ）微毛アル者モアリナキモノモアリ花実モ亦同クシテ

微大ナリ

タヾ苗高大者



ハコベ
ハクベラ 和名鈔
ハコベラ 古名
ミキノクサ 古歌
ハベラ 勢州亀山
アサシラゲ 加州羽州
ヒヅリ 藝州石州
ヘヅリ 讃州
ヘヅル ヒヅルトモ 雲州
ヒンヅリ 丹波 若州
マヒヅル 備前
ヘンヅル 若州
ムミツリ 豫州西條
コヒヅリ
オホヒヅリ 若狭
クサノイト 歌書

ムトル 和蘭

繁蔞 證類
蘩蔞 同上
以上繁縷ノ字ニ書カエヘシ

啓蟄前ノ圖

繁縷

【釋名】 薮縷 爾雅 雞肝 證類本草
滋草 千金 薮 音敖 雞矢十加非 御薬本草
【輔仁】 蘩蔞一名雞腸 蘇本 一名薮蔞一名薮 以上出輔仁本草 鵞腸菜 此草莖蔓甚繁中有一縷故名俗呼鵞兒腸菜象形也易於滋長故曰滋草 一名百滋草 蘇敬注 薮縷 郭璞 按薮按爾雅薮訛註 敖亦薮誤

庭除路旁ニ甚多シ四時常ニアリ春夏ノ盛ナリ方莖地ニシキテ蔓ノ如シ内空ニノ一ツノ粗縷アリテ強シ葉ハ兩對ス形𢷅ニ似テ尖リ長サ一寸餘瘠地ノモノハ至テ小ク肥土ノモノハ長サ二寸ナルモアリコレヲウシハコベト云正二月花ヲ開ク暖地ニテハ冬モ花アリ莖頂ニ多ク聚リ生ス大サ三分許其瓣狹細ニシテ白色十瓣ナレ𪜈五瓣ノ如ク見ユ中ニ十蘂アリ後小房ヲ結フ内ニ小黒子アリ落テ生シ易シ

○疣ニ煎洗 ○同甲申ノ日ニハコベノシボリ汁ヲ付 ○女妊中腹痛ハコベ煎服 ○虫歯ハコベ霜 ○産門傷ハコベ車前葉ニハトコ煎洗 ○金刃所傷卒絶ハコベノ陰干霜五分益母草霜二分白湯下 ○大便結ツルハコベニ塩ヲ入霜ヨシニテ尻ヲコム秘結ノ妙薬 ○一切疼痛ハコベ霜一分桂心少阿膠霜ハコベ汁調敷 ○面部諸瘡ハコベ霜蛇脱皮霜髮垢梅瘡米飯研調敷 ○足底皸裂ハコベ

ツルハコベ

生茄子生壁片水煎布濾去滓再煎如餳傳
モスル汁冷也腫物ヲ消ス ○疝積塊ハコベ汁
押又血ヲ乱ス愈苦汁ハコベ ○重舌ハコベ霜
ニ血ヲ破リ乳汁ヲ下ス ○積年ノ悪瘡疼愈ザルヲ治

ツルハコベ
ウシハコベ

啓蒙前

ハナハコベ
ヤマハコベ
ミヤマハコベ
マルバノハコベ
大リンノハコベ

穀雨後花ヲ開ク

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

アヲハコベ
ヒメハコベ

勢州坂本山産
舊根ヨリ生ノ葉小ノ円ニ
穀雨ノ頃葉間細莖疎緑色
ノ花ヲ開ク

コナスビ

中ニ黒子
二三十粒
アリ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

カワラケナ

コナスビ 伊州
ヤキノヒタ
ペンニンコロイト

ハタケナスビ 紀州
ケヒカグサ
ナスビグサ
マルハコベ

繁縷ノ一種黄花者　黄花繁縷コレナリ
田野人家倶ニ生ス好テ陰地ニ生ス圓葉對生ニ二三寸地ニ這テ生ス莖普通ニ毛茸アリ四五月五瓣黄花ヲ開後蒴ヲ結形茄子ノ如ニメ小ナリ故ニ名ク此一種ニ深山ニ生スルモノハ莖ノ長ク莖ニ纏アリ花葉モ大ナリ肆中ニ生スル者ハ小ニメ莖ニ纏ナク深山ノモノ真ノ黄繁縷ナリ

カワラケナ　タビラコ
イヌハコベ　アサギハコベ
オハコベ
ミヤクミナ

鷄腸草　綿絲菜　救荒草

正月人日七種若菜ノ内タビラコト称スル者是ナリ秋以後子生ス苗地ニ就テ數十葉叢生ス葉ノ形円ニノ五六分又楕形ナルモアリ皆長茎アリ二月以後漸ク薹ヲ抽ク三五寸其葉形長メ互生ニ莖ナニ稍ニ穂ヲ出ニ青白花ヲ開ク五瓣甚小ニテ莖葉ナニ至リ猶花アリ後子ヲ生ニ熟メ苗根俱ニ枯ル

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

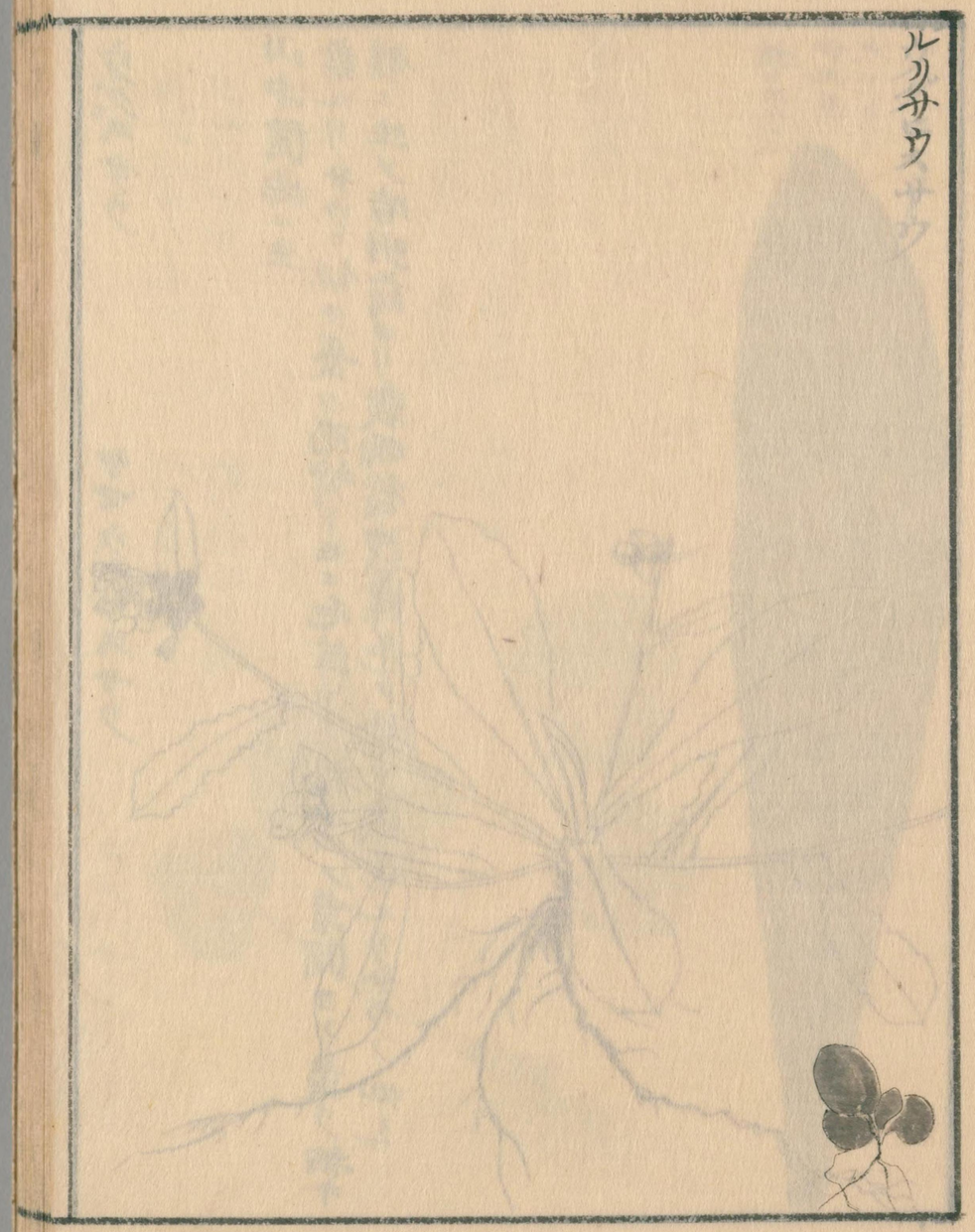
ハナイバナ　葉ノアイダニサクハナトヨコナリ

雞腸草一種

形狀カハラケナノ如ニノ葉長ク而
肯トモニ毛茸アリ
穗ニ葉互生ニテ葉間ゴトニ一花ヲ
開クカハラケナノ花ノ如クニノ色白ニ

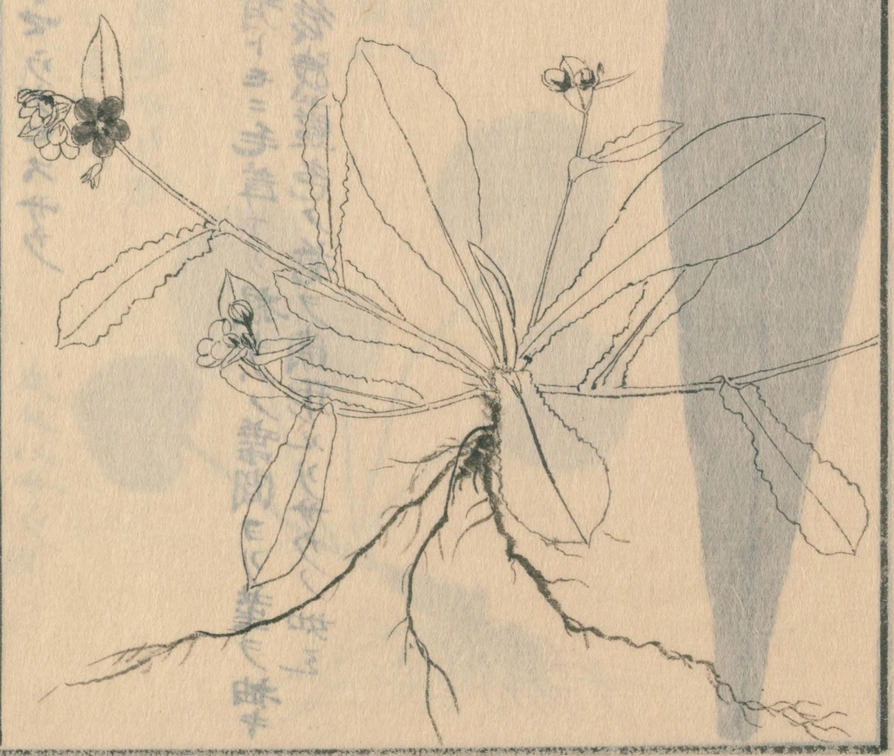
国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

ウグヒスサウ



国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ウグヒスサウ　ヤマウグヒスサウ

山中陰地ニ生
葉ルリサウニ似テ長ク面背トモニ毛茸アリ根ギハノ葉間ヨリ莖ヲ抽キ
横ニ生ノ晴明前ヨリ穀雨後淺藍色ノ花ヲ開形ルリサウノ如シ

ハカバミ

菊咲ノハカベ
ヒヅメグサ
馬蹄草

ハカベ
カメバサイレン
コムメグサ

カメバ京
ハツ子グサ
雷亀サウ京

木曽蘭南沢　木川大原ノ御巣山
奈良井古寺沢ニ甚多シ　三浦山
穀雨後

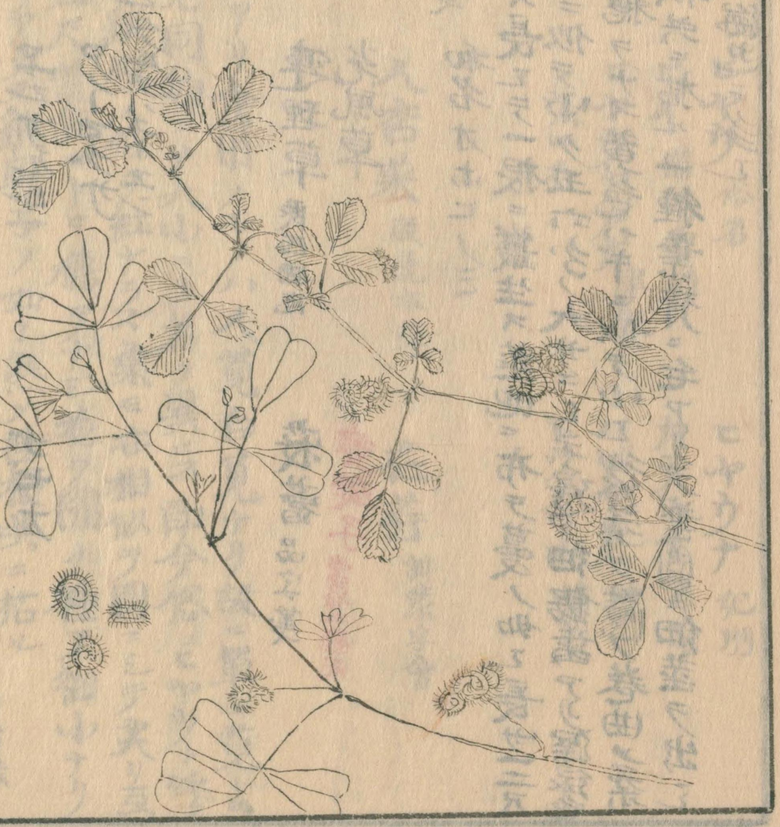
カメバサウ同

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21
ガラス使用

ツルカメバ

ハカバミノ一種花後蔓ヲ生地ニハフテ二三尺其止ル所ニ苗ヲ生ジ根ヲ出ス春ハ蔸ノ如ク葉小ナリ尺六七月ニ花ヲ開ク白ニ微ニ藍色ヲ帯葉大ナリ夏後花ヲ開ク白ニ微ニ藍色ヲ帯水辺ニ生ス信州ニアリ

ムセコヤシ



国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ムマゴヤシ　セゴヤシ 江戸
カタバミ　サバ
カラクサ　ヨシザルレ
ムマノクサ　アイマグサ
ノラヘレニメツトハクロニムルデハユーエン
オホヒ 和名鈔
ミツバ
ゴゼナ

苜蓿　連理草 陝西縣志　蓿蓿 品字箋
釋名 木粟 綱目　光風草　麥旋子 當塗縣志
莞豆 媍書
韓仁 揆面芝 北入名之 崔寔　和名オホヒノ之
原野ニ多シ秋宿子生ス長シテ一根ニ叢生ス莖地ニ布テ蔓ノ如シ長サ一二尺葉ヱ生ス形ハギノ葉ニ似テ小ク五六分ノ大サニシテ邊ニ細鋸歯アリ深緑色三月葉間ニ三五小花穂ヲナス黄色ハギニ似テ小シ後莢ヲ結ブ巻曲シテ刺アリ夏月熟シテ苗根共ニ枯ル 一種葉背ニ毛アリテ葉間ニ細莖ヲ出シ數花毬ヲナスモノアリ海辺ニ多シ

ヒユ 和名鈔　ヒヤウ 俗名
ヒヨ 筑前 江州　ヒイ 備前 雲州
ヒイナ 河州　ヒヤウアカザ 津軽
マヒユ　トウビユ
アヲヒユ 仙臺
ヒヤウナ 紀州
カラヒイ 備前
ハビヤウ 加州
トウノヒユ 播州

莧
非鷹子 御葉本草　人杏菜 救荒本草　花芀 訓蒙字會
莧ハ總名ナリ數種アリ食用ノモノハ人莧白莧ナリ故ニ單ニ莧ト云ハコレヲ指ス人莧白莧同物ニシテ大小ニテ名ヲ異ニス即今俗ニヒヤウト呼ブモノナリ春種ヲ下ス苗雞冠ニ似テ紅ナラズ葉モ赤相似テ圓ニシテ尖リ互生ス秋ニ至リ高サ四五尺葉間ゴトニ穂ヲナシ花ヲ開ク極テ細小ナリ後小黒子ヲ結ブ光リアリテ雞冠子ノ如シ熟シテ苗根共ニ枯ル
集解 赤莧ハアカヒユ　紅莧 汝南圃史　跛鼈還丹 事物紺珠
鼈還丹 清異録

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21
ガラス使用

同 紫莧ハムラサキヒユ 一名アカビソ南部
莖葉紫色ニメ紫蘇ノ如シ
同 五色莧 ハナビユ 葉ニ數色雜リアルヲ云
本草衍義ニ莖高而葉紅黄二色者謂之紅人莧可淹菜用ト云リ

成形 比由 和名鈔
アカヒユ 同上即赤莧なり 比婆 莧葉の畧なり葉を ヒヤウアカザ ヒユアカザの義なり
字の添なり サトビユト云 下の犬ビヤ 莇ふをもて名とす ハビヤウ 訛なり 比夜宇と訓ハ音便な
うとまうさ 訛なり 葉莧の ヒヤウナ 訛なり 即莧菜か
蕃名 ゴロート マエール
比由とは其性の寒冷なるに由と云 本草に六種ありといへども要ハ四
種とある所謂白莧赤莧斑莧野莧なり家莧ハ葉莖大にして
方五六寸にもなり白莧をよ飯しとし珍なるハ白莧の變色にて
形ハ殊に大なり內膳式に莧四升 五六七九月 供奉しるすしかんえるは
野莧なりや今試るに莧の類六月已後ハ食ふに堪へど
氣味白莧ハ甘く性寒にして毒なし ○主治に小兒馬脾風驚風に
は食莧を黒焼細末し耳爬二まくひ程水にて用ひよ 和方 ○莧菜ハ
鼈と同く食ふべからず

国立国会図書館 タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

ナツナ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

イヌビユ

センニンコク 藏

カラゴて大和 実ノ色淡黄大サケシノ子ノ如シ
イリ食フケシノ如ニメ香シ
スギタレ 知多郡名和
ヒモケイトウ 江戸

ヤウラクケイトウ 江戸
センニンガラ
ヱンコウケイトウ
壽命サウ

莧ノ一種

アヲヒユ 如尾
チユス

カウタケユス 莧類

琉球産文化十三年名古屋へ初テ来
葉ヲ採茉トナシ又実ノ熟タルヲ麻擂テ吹火
ニ用ルゴトクニ諸ノ菜ヘフリカケ食バ甚香シ

センニンコク
ヱンコウケイトウ
壽命サウ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

イヌビユ　ノビユ　ヲカヒイナ 阿州

イヌベウ 知多郡大野　ヒヤウ 江州上野

細莧

野莧 頌ノ説ニ細莧一名野莧ト云

道旁及壁側ニ多ク生ス高七八寸或尺余茎赤ク葉ハ小クメ末凹長サ一寸許互生ス夏秋ノ間枝頂ゴトニ穂ヲナス二三寸許細小花ヲ開ク莧ニ似テ赤色

一種葉紫紅色ノモノベニノクサ 東濃加志母

スベリヒユ
ヌメリヒユ 防州
ナメリベウ 仙ダイ
スベリビユ
アミベウ 木曽 又野莧ヲアマベウト云所モアリ
馬歯莧
醬瓣草 汝南圃史
醬板草 瘡瘍全書
飯鍬頭 茹草編
馬歯菜 同上 附録
莧陸 品字箋
金非藨 御葉本草
木瓜草 全嬰方

ウマビユ 和名鈔
イヌヒヤウ 相州
イハヒヅル 伯州
ハヒスベリ 尾州春日井郡
スベリヒヤウ 佐州
ズンベラヒヤウ 加州
スベリグサ 木曽岩郷
スメリヒヤウ 仙ダイ

馬歯草 附録

釋名 馬莧 別録 五行草 圖經
長命菜 同上 九頭獅子草 時珍曰其葉比並如馬歯而性滑利似莧故名俗呼大葉者為㹠耳草小葉者為鼠
歯莧又名九頭獅子草其性耐久難燥故有長命之称
五行草以其葉青梗赤花黄根白子黒也 五方草 綱目

圃史 其葉似豆瓣故呉俗又呼為醬瓣草

彙言 似莧而実非莧今以莧名者因其形類氣味与莧同也

此草春ハナシ夏ノ初子生ス茎ハ圓ニシテ赤ク地ニ布テ直立セズ葉両對ス形楷ニシテ厚ク長サ五七分光リアリ故ニ保昇ノ説ニ此草ヨリ水銀ヲ取ルイフト云リ

天工開物ニ方書云馬歯莧取草錫者妄言也凡水銀與硃更無他出其演海草演之説無端在妄耳トミヘ葉間ニ黄花ヲ開ク大サ二分許十瓣ナリ後尖扁実ヲ結ブ内ニ細子アリ秋後苗枯生時採テ久シクカケ置テモ枯萎セス

用薬須知續編 朝東馬歯莧 東ノ方ヘハヒコリ生スル馬歯莧ナリ

國藥須知 主治崩中漏下赤白帯下血塊月経不凋産後悪露打撲傷損金瘡

出血ニ効アリ

千金方藥註 莖葉小兒丹毒ヲ治

○馬ノ咬ニ付ル

○ツルニラケバ蠅不来ト云 ○癬スベリヒスメリ付ル

○丹毒 蝮蛇咬スベリヒスノ葉ニボリ汁ニバイイノム ○白禿スベリヒスメリ付ル

○唇裂スベリヒス汁ヌル ○小兒夏月生瘡スベリヒニ塗汁 ○漆瘡スベリヒニ汁ヌル

○白禿スベリヒス半生半焼霜酢調敷 ○面上瘡痕スベリヒス絞

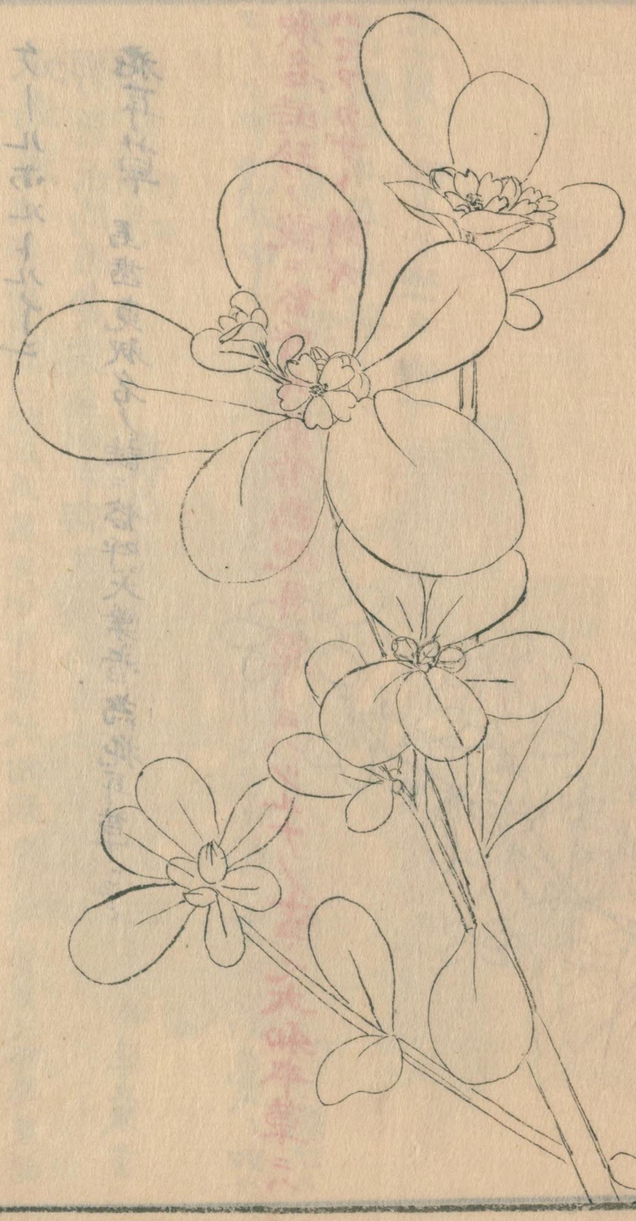
成形 スベリヒユ 多識篇 ヌメリヒユ スベラゼヤウ加賀 ウゼヒス

イヌヒヤウ イハイヅル

ホトケノコ、 タムメ 蕃名 ポルセレイニ

此ヒユノ名ヲ負フハ、即ヒユルノ詛ナリ性至テツヨノ枝テ夏ノ炎天ニ日ヲ連子曝ヲ或ハ軒ニ倒ニツルヲ置トイヘ庇枯レズテ活レリ

○唇瘡ヲ或ハ軒ニ倒ニツルヲ置トイヘ庇枯レズテ活レリ ○瘡瘡ヲ或ハ軒ニ倒ニツルヲ置トイヘ庇枯レズテ活レリ ○瘡瘡四ニ成ルニ馬莧黒焼水ヲ入トキ附 ○婦人乳腫ニ馬莧搗テ附 ○脫肛又痔ノ痛ニ馬莧水ニテ煎洗 ○イボ痔ニハ馬莧煎洗 ○白禿ヲ馬莧ヲ水ニテ煮湯ニ入肛門ヲ火氣ニ当セテヨシ ○小兒丹毒ニ馬莧搗絞リ汁ヲ合蜜少加ヘ空腹ニ與ベシ ○小兒丹毒ニ馬莧ヲ搗上ニ障ナク塗 以上和方一萬方



オホスヘリヒユ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

オホスベリヒユ
ケールホルトルイニ

和蘭スベリヒユトス 上ニ立ルモノ

馬歯莧 釈名ノ註ニ俗呼大葉者為馬歯莧ト云ヘルニ

釈名時珍ノ説ニ俗呼大葉者為馬歯莧ト云ヘルハ誤ナリ大和本草ニハ
ハマアカザト訓ベ

ミヅハコベ

大暑前後ノ圖

水馬歯　雑解時珍曰一種水馬歯生水中形状相類亦可食見王西楼菜譜一

野諸　水馬歯食葉生水中與陸地馬歯莧相似熟食

薩菜　野菜博録　長命菜同上　水馬歯莧　本草彙言

コノクサ浅水中ニ生ス根ハ水底ニアリ葦葉ハ水面ニ浮ヒ藤蔓ノ如シ繁茂ス莖細ク緑ノ如シ葉互ヒテ小ク圓サ一分余長サ二三分ヲ對生ス浅緑色冬春最盛ナリ九十月ノ比ヨリ生ス鄉下屋敷ノ東鍬祝矢場ノ東溝川ノ水底ニ多シ

春多前後ノ圖

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ケミアザミ
タミポヽ 筑前
コマビヤミ 信州
ムマノモチ
都波比良久ミ佐

ノゲミ
ムマゴヤミ 頭州
ゴアミ 能州
ナクワカ 和多郡久村

キツ子ノタバコ 和州
コマミタゲ 江州
ケミナグサ 和漢三才図絵
ジイバヾ 江戸

苦菜
黄麥 通雅
苦蘵 裏桑輯要
愁伊木 御薬本草
典馬 盛京通志

選 本経
芑 同
曲々菜 訓蒙字會
平蘆 事物紺珠
苦馬菜 新城県志
苦苣 嘉祐
褊苣 日用

苦馬 松江府志
采芑 廣西通志
田青菜 同上
苦益 名物譎言
苦々菜 同
苦蕒 綱目
老鸛菜 救荒

釋名 荼 音途 本経
游冬 別録
天香菜 賭藜 出秘辟名也 經冬歴春故曰游冬 許氏説文苣作䒷 呉人呼為苦蕒

正字通 苦荼 苦蕒分二種 形味各別 本草綱目併為一 謂苦菜即

苦蕒血椿（家植）者呼テ苦苣ト為ハ非

輔仁 游冬 茖 荼 苦蘵

苵蘆（以茗以上陶景注） 荼（音途） 南植草（崔禹）

茗菜 翹揺草（七巻食経）

秋月子生ス葉ノ形薊葉ニ似テ刺ナク白色ヲ帯ビテ琵琶葉ノ如ニ青莖アリ紫莖アリ倶ニ中空ニシテ五稜アリ莖葉ヲ切レバ白汁ヲ出ス春ニ至テ苗高サ二三尺葉互生ス葉間ニ枝又ヲ分ケ上ニ多ク花ヲ開ク萵苣花ニ似テ黄色罷ナハ小長子多ク萼中ニ聚リ上ニ白絮アリテ蒲公英絮ノ如ク子熟スレバ風ニ随テ飛ブ其苗根共ニ枯ル

シロヂサ

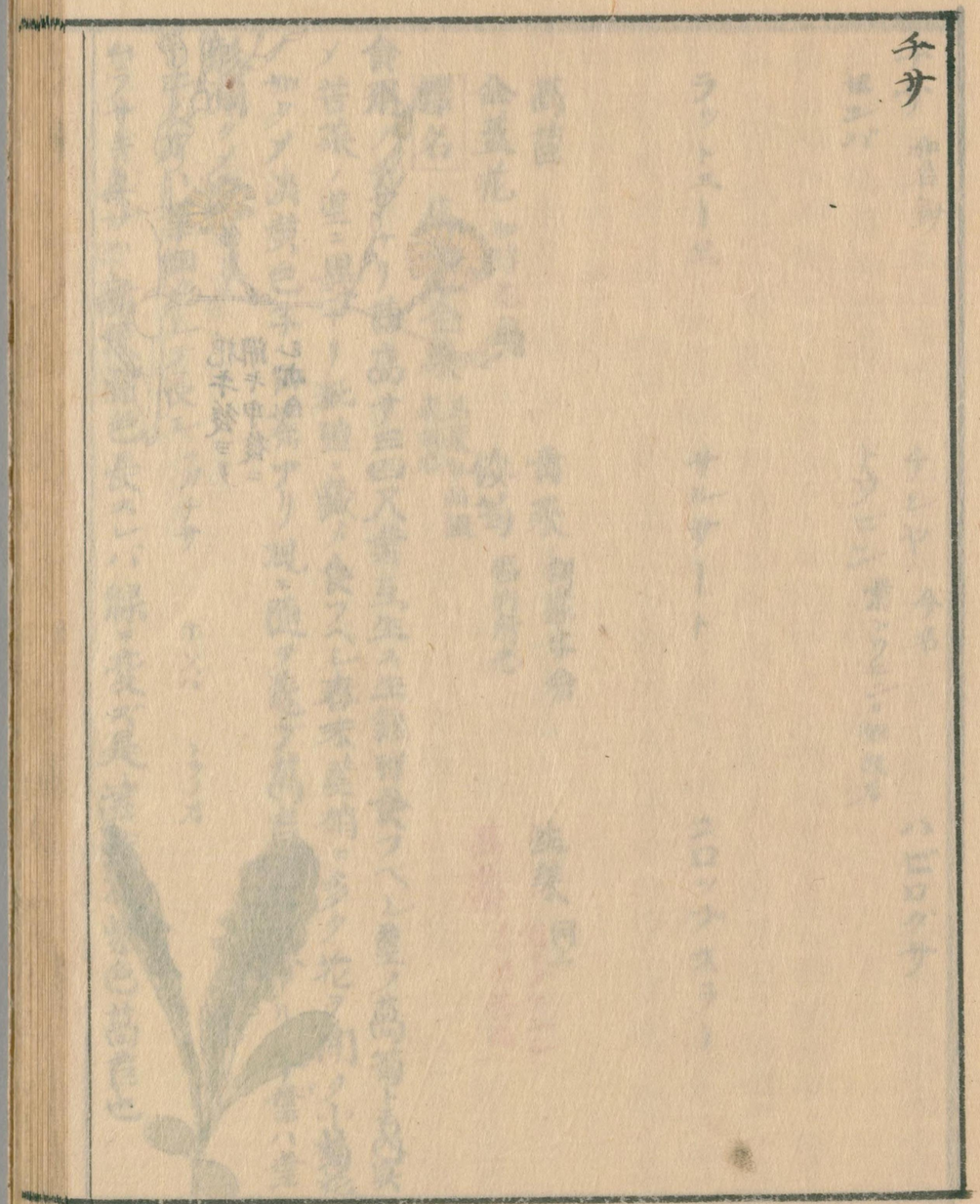
白苣

釋名 石苣（綱目） 生菜 斜羅夫老（御茉本草）

輔仁 苦美萵茸（ふ是苣類耳 崔禹）

是ハ萵苣ノ色白キ者ナリ

国立国会図書館 タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21 ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

チサ 和名鈔
ヒニバ

チシヤ 今名
トウヒニ葉トウヒニニ似故名

ハヒログサ

ラットユーヲ

サルサート

コロップスラー

萵苣
金盞花 秘傳花鏡

釋名 萵菜千金菜 萵菜自高國來故名

食用ノチサナリ茜高サ三四尺葉互生ス生熟皆食フベシ莖ヲ萵筍トモ内實メ苦菜ノ莖ニ異ナリ糀鹽ニ藏メ食スベシ春末莖梢ニ多ク花ヲ開ク小菊花ノ如クメ淡黄色子ハ白綿アリ風ニ隨テ飛ブ萵苣ニ數種アリ千葉ハ葉形潤クメ密ナリ

キシノオハ葉細クシテ長シナガチサ ホソバ トラノオ

ムラサキチサハ新葉紫色長スレバ緑ニ變ズ是紫莖萵苣ト紫色萵苣也

青菜 訓蒙字會
倭筍 福州府志

生菜 同上 福州ケニ
萵苣 福州府志

センセイバリ　葉多ク生故名

トクワカ　茎立ヤヽ遅シ

タバコノ葉　葉ノ巾廣クシブミナク上品ナリ

國菜須知　主治咽喉疼痛歯痛頭瘡目赤脉痒痛ノ者痢疾淋病小便
閉痰咳喘息脚腫痛ニモ宜シ并瘡毒内攻ノ者ニ用

用菜須知續編　ムマノホウガラトモ云北國ニアリ春初芽ヲ生ス形酸桶笋ニ似タリ
華人採テ塩蔵シ糟ニ藏メテ珍味トス　春末ヨリ夏ニ入テ葉ヲ展ブ葉長サ二尺
許形甚山萵苣ニ似タリ但葉茎ヲ抱カズシテ附生ス岐缺ナシ狭長ニシテ鳳尾ノ如ク
幹高サ丈許ニ及ブ初生ノ葉ヲ布テ毛連菜ニ似テ色青白少シ赤褐ヲ帯ブ萵
苣ヲチサト云ハ非ナリ

○歯痛　萵苣茎霜　○歯ノサ萵苣根霜付之　○淋萵苣実
○乳汁不出チサ実ニ及麦門冬ニ及餅米一合粥ニシテ食フ○口中一切ニ萵苣
葉霜○金瘡跌腫苦苣根搗絞汁塗之○舌瘡——茎霜○舌ザコ——葉
茎霜○魚毒——茎葉山梔○嘈雜——葉

萵苣　喬麥　胡椒　合食禁

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

成形

知佐 萬葉集 凡萵苣の属其茎葉を折ば皆白汁ありて出故にチサとは乳草の略なるべし

萵苣 食療○墨客揮犀ニ萵菜自呙國來故名 萵菜 千金菜 以上綱目

蕃名サラート 大和本草 ミユレイヱ 白苣

延喜式營萵苣一段種子三升苗一千五百把料下子肌殖功六人肌芸一遍云々

今は二月春分に種下し三四月苗地に移栽て生ふ長るに随て薹を起て三四尺茎中空なり 漢に萵筍と見えしは萵の薹の事也 葉短皺て脆し茎を抱て附り是を摘缺て生ながらも熟ても食ふ四五月黄花開く小菊の綻びし形なせり一花ツヽに子を結び一叢ありて鶴虱子に類せり子の上に白毛あり倶に風に飄飛て落る所即生ずるなり故に七八月再種を蒔べし ○苣に数品あり植るには葉短く厚くて夏にいたると茎立せざるを撰ぶべし春夏の交他の菜なき時も採用ゆるに足れりされど下品なり 附て和ともひ出せるは西洲より浪華津にまうで来る山陽の舟路せるには海門中にて五年十年に扣しつる程を四方のあつらも船に居むりぎあれ知らせて動すれば雨風などの荒波かけて家も底すきどられつゝ危きこと限りなからしそこの港に繁留する事のこちらで出とに相うき旅の役かく苦しその中ともいへども舟子ども習として飯る夕なん菜にも茄さまる事なそは世をのいやしくてくるしまれ相うちぞかけ声おぼ微るるには蚤なしで袖も袂もおいぐるなき我夜さむの雁れすさまじは秋までは蔬菜ぞし

○白苣は葉白く紫苣は茎赤し 雉尾苣は葉狭く垂て千葉は高秀して赤磨簇也又高野苣あり極て多て花紫色なり ○地に埋ておくも良し又砂礫

の耕しき地にも育て至十分水の小便をかけ頻に灌ぎば葉日に長逹く

萵苣味苦く性寒にして毒あり或ハ蠶を養に忌と云或曰苣の葉紫なるハ小毒あり又續博物志云萵菜出萵國有毒百蟲不敢近になるを欲○一種山苣と称ふるは野生の萵苣也○主治萵苣の茎葉をへぎて衣厨に放バ虫蛀を避く農政全書○大同類聚方麻下冷方中薬私曰此方豊ノ中津に古ク傳村民多ク兼旨上之朝家也治麻之奇方又假之為治下冷之通方也チサノキ和名アマカヅラ私曰今ノアマチヤナリ水煎之日二用フ按に大同類聚方抜萃に私曰とある八文治元年典薬頭康抜萃十三方を鈔録し付の私按あり○乳汁病には萵苣子生一合生甘草三文糯米粳米各半合を粥に煮て頻に是を食ふ或ハ萵苣子一味を研細にし酒にて服ば乳汁を通ず本草方○小便閉には萵苣を搗たゞらして臍中に貼ば即通じぬ海上仙方○小児銭を咽に引かけるにハ萵苣の葉を揉てその汁を飲しむべしを侭す○急喉風には咽喉腫塞るなり萵苣の根を黒焼細末し管にて吹入べし一本に土際一寸土中一寸の所を取て猶効アリ以上和方一萬方

キクヂサ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

キクヂサ
トウチサ
エドチシヤ

アヽデイヒイ
ミコリウム 羅甸

アヽデイヒ
ミコレイ

ヲラシヾチサ
カウライヂサ

ハナヂサ

猪葉菜 志州鵜方

高苣一種

葉ニ花岐多ヒ生食煮食共ニ佳ナリ冬来春初最繁ノヒテ千葉牡丹花ノ形ノ如ヒ漸ク莖ヲ起スコト二三尺葉互生ス葉間ニ枝ヲ抽ルコト長ヒ夏ニ入テ葉間ゴトニ花ヲ開ク形蒲公英ノ花ニ似テ深藍色朝ニ開キ午前ニ色変ス蕾ハ葉ゴトニ多ケレ共日ニ一花ノミ開ク後実ヲ結ブ形同蒿子ノ如ク紫ヲナサズ

啓蟄後

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

水苦蕒カハチサニ充ガタシ今古説ニ從ヒ充レル根似白水而軟トアレバ売リガタシ
カハチサハ根白ク葉ハ羊蹄ノ葉ニ異ナリ是ハ救荒ノ水蔴菜ナリ

カハヂサ　　ギバサニライサウ 同名多シ
イベキナ 蝦夷　　イヌキヽヤウ 知多郡本地

水苦蕒

釋名 謝婆菜 蜀経　半邊山　水萵苣 救荒本草　水菠菜 同上

流水中ニ生ス茎圓ニシテ葉両對ス形ハ水楊(ミヅヤナギ)ノ葉ニ似テ尖ラズ薄クシテ細鋸齒アリ寒天ニハ微紫色ヲ帯採テ生菜トナシ萵苣ニ代ユ三月苗高サ二三尺枝頭及葉間ゴトニ穂ヲ出ス長サ三寸許小花ヲ開ク大サ一分許淺紅色後圓実ヲ結ブ珍珠菜(トラノヲ)ノ実ノ如シ

○金瘡瘥後肉偏起方 カハヂシヤ葉霜蒲公英(タンポポ)竜骨末ハコベ汁調敷 ○

金瘡腫痛——陰干積雪草陰干末酢調敷 ○産後血症

○カハチサ　甘苦定滑毒ナシ咽喉腫痛ヲ治シ癬ヲ治ス

ツチグリ　　ブクレウサウ 大坂
ミツバザイコ　　カワラザイコ 同名アリ
　　ウラカゼグサ

翻白草

釋名 雞腿兒 救荒　天藕 野菜譜 時珍曰翻白以葉之形名雞腿天藕以根之味名也楚人謂之湖雞腿淮人謂之天藕

此ニ三葉七葉ノ二種アリ此書ニ説ク所ノ翻白草ハ三葉ノ者ナリ葉ハ蛇含ノ葉ニ似テ背ニ白毛多シ一根數葉冬凋マズ春ニ至リ茎ヲ生シ地ニ布キ梢ニ枝ヲ分チ花ヲ開ク五瓣黄色委陵菜ノ花ニ異ナラズ（スコシ大也）七葉ノ者ハ救荒本草ニ説ク所ノ雞腿兒一名翻白草ナリ葉ハ紫藤(フヂ)葉ニ似テ鋸齒アリ葉背ニ白毛多シ花ハ三葉ノモノト同シ根ハ皆小指ノ大サノ如ニシテ両頭尖リ一窠ニ數枝アリ赤皮白肉生食スベシ小兒採テ食フ又葉背白カラサルモノ亦二品アリ

七葉ノモノヲ大葉ノカハラザイコト云是雞腿兒ノ一種ナリ

三葉ノモノヲミツバサイコト云一名ウマノミツバ 京北山 是翻白草ノ一種ナリ花ハ二品共ニ形同シテ大ナリ又委陵菜ニモ翻白菜ノ名アリ救荒本草ニ出ツ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

○夜行ノ方中ニ翻白草ヲ用テ其涼潤解毒ノ効アリ

翻白草

蝦夷ニクヌルフジ子ツプヨロイ産

茎葉トモニ白毛茸多シ背白毛多シテ白シ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

御薗産

白花ミツバサイコ

〔伊藤圭介先生曰〕
此白花ノミツバサイコトイフモノハ
即白花ノヘビイチゴトイフ

〔伊藤圭介先生曰〕
白花ノヘビイチゴ
即白花ノミツバサイコ

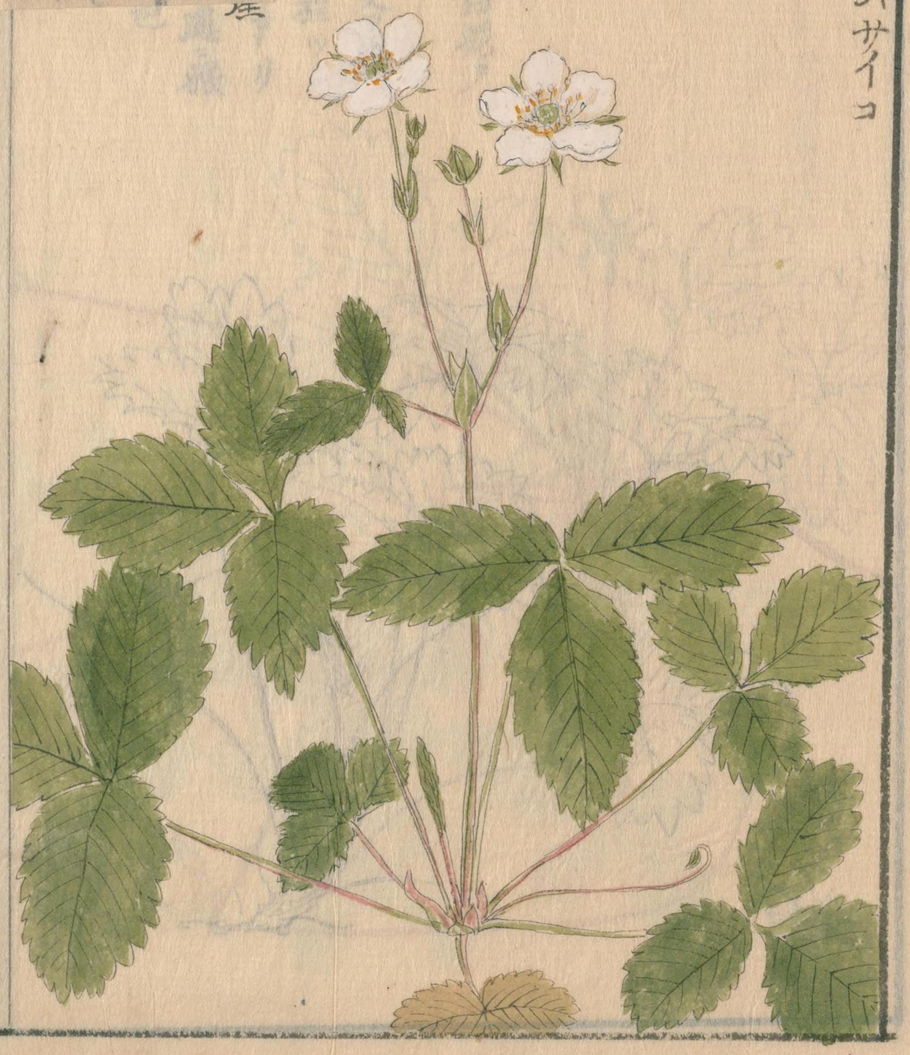
日光採産

五

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

（伊藤圭介先生説）
此白花ノミツバサイコトスルモノ
ハ白花ノヘビイチゴ
ナリ

白花ミツバサイコ



御薗産

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

立夏前後白花ヲ開ク
葉間ヨリ莖ヲ生ジ地ニハヒ一尺程ツヽ間アリテ節アリ葉ヲ生ジ其處ニ根ヲ生ズ莖紅色
白山ニアリ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

「伊藤圭介先生按ニ」
イハキンバイハ
即チツルキンバイト一種ナリ
茎ヨリ[illegible]
小葉ツチグリ

イワキンバイ
イワイチゴ 勢州菰野山方言

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

イワキンバイ　イワイチゴ　勢州恭野

山中石間ニ生ス勢州恭野湯ノ山ノ上ヨリ右ノ谷ニアリ
木曽玉滝フドウ滝ノ邊

仙人杖草

未タ詳ナラズ

仙人杖ニハ同名アリ葉解頌曰仙人杖有三物同名一種是菜類一種是枯死竹筍之色黒者拘杞一名仙人杖是也ト云

況香ノ一種ニモ此名アリ彙言ニ出故葉解ト四物同名ナリ

タンポヽ　フチナ 和名鈔　タナ 同上

タヂナ 信州　ムヂナ 勢州　グチナ 奥州

グチグチナ 佐州　ゴヤミ 同上　ツヾミグサ 越中

ツヾミバナ　テントロ 北濃中切　ニンゴ 三州西尾

ガンボウジ 木曽贄川西野　キミナ 丹後舊西郡川口　テヽツポウ 仙臺

ホノイノヤ 蝦夷　コマウホ 蝦夷

タノモグサ 田野徧有之故ニ野人名付テ田面グサト云　タンポグサ　タンバクサ　タンホヽ ト云皆同意也白花ノモノヲ白鼓釘ト云

此ヲ以テツヽミツナト云一説ニタンホヽハツヽミノ柏子ノ声ヽ故タンホヽノ異名ヲツヽミクサト云　苦乳菜（チチナ）此草ヲ切レバ白汁ヲ出ス味苦故クチナ菜ト云

テゴヽクサ 小兒茎ヲ採テ切ロヲ四ツニ開キロヲ以テ吹テ正ニ鼓トナルヲ戯レトス名付テ屈曲草ト云テ曲リテゴヽハ屈リ曲ル之畧ミゴト云　テゴヽンゴヲ畧メ云

古哥ニ おとにきく鼓ヶ滝をうちみれハふもとにちくとたんほゝの花 トヨメルハ鼓クサの義也

パペンコロイト

ハンケルブルーメレ

蒲公英

孛孛丁菜 本草蒙筌

蔜釘 物理小識

奶汁草 本經逢原

金簪花 群芳譜

釋名 攝耨草 音攝娜 金簪草 綱目

稽思錄千金方作鳧公英蘇頌圖經作僕公堇庚辛玉冊作鵝鴣英俗呼蒲公丁又呼黃花地丁淮人謂之白蔜釘蜀人謂之耳撮草閩中謂之狗乳草案土宿本草云金簪草一名地丁花如金簪頭有脚故以名之

滿地金錢 丹臺玉案

名長生 救荒本草同名

蒲公草 三才圖繪

婆婆丁 滇南本草

地丁草 貴州府志

黃花苗 救荒本草

陸英 同上

蒲菜 同上

黃花鼎草 鎮江府志

攝耨子 類書纂要

黃花地丁

撒地金錢 證治準繩

孛孛黃花 吾家菅

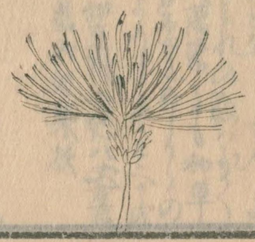
原野路旁甚多之然之庇紀州熊野ニハ自生ナシ廣東新語ニモ嶺南ニハ生セサルヿヲ云リ葉ハ冬モヨリ盛ニ生シ地ニ就テ叢生ス形苦菜ノ葉ニ似テ小ク薺葉ニ似テ大キリ切レバ白汁ヲ出ス春時煮食フ味微苦ニ三月莖ヲ出ス肥ル者ハ數十莖高サ五十許内空シ頂ニ一花ヲ開ク單葉菊花ノ如ク黃色又千葉ナルモノアリ一花後白綿トナリ風ニ隨テ飛ブ根ハ冬ヲ經テ枯レズ葉ハ年中アリ花ハ春多後ヨリ清明前後一種白花ナルモノ野生稀ナリ葉長大花モ亦大ク莖ノ高サ一二尺ニ至ル豊

後ニハ白花ノモノ許リ之ヿヲ大和芳野ニ黃花ナシ白花バカリ又曰

一種筒瓣ノ者アリ千瓣ニメ實ヲ結ハズ

一種綠花ノモノ花萬葉ニメ綠色實ヲ結ハズ

一種淺紅



成形 フヂナ 本草和名順鈔同薹蔬菜ニテ紫花ノモノヨリ云ニヤ タナ 同上薹田菜也 和草 萬葉集にいる鹿をとゝむる

川也のにご草とあり又古今六帖に葦垣の中山ニコ草なごゝかに我とゐえして人によ
おもひそめる叶を日重上人安世忠にご草はたんぽゝの事とし摘たむしるもそれの般はかく
てあるに茅蕭夜ゝを爲寸青よりよれば日重上人の書を當れりとも云べし又萬葉にも和草
多く川也と訓されば栽は萩の異名とも又茎根茎のあるとも云ふ也万葉にもあるあらうの
茎根の袖ちの和草の花つゝまるれや紐解もぞ垂れんといふも因ていへどもよろしくもあるべし
冬ざれとゝつも田笑は和草に笑ゑるの意ならや

ムヂナ フヂナの訛なり グヂナ グチグイナ コヤジ オホチゴナ 伊豆風土記八丈方言 蓋大兒菜歟

○英小ク満佛さうを笛吹らんかくといふ

和蘭薬鏡 タラキミキウム 羅 パノルテブルーム 蘭 乳ノ汁ヲ含ミ殊ニ根ニ多シ其質ゴムハルススニテ味苦クヤヽ鹹甘ヲ帯ブ此草ノ効力專ラ此汁ニ在リ故生鮮ノ根茎及其搾汁ヲ取リ薬用トス乾根ハ其汁耗散スル故ニ効力鮮ナシ秋冬ニ茎葉萌發セザルトキハ其汁専ラ根ニ在ル故ニ是ヲ取リエキス剤トシ貯用ス或ハ生根ヲ細ニ剉ミ沸湯ニ浸シ茶氣濃ク出テ茶湯ノ如クナルヲ用ユ或ハ春夏茎葉繁茂ノ時ハ生草ヲ搗キ其汁ヲ搾リ取リ頸長キ硝子壜ニ充メシメ其上ニ油ヲ注キ内ニ固封シ置トキハ速ニ腐敗セズ

試効 解凝ノ一良薬トス石鹸様ノ質アリテ凝結ヲ疏解シ小便ヲ利ス以下略

国立国会図書館 タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21
ガラス使用

白タンポ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

花陰干蜜和置舌上須臾而服亦冒噎膈　○歯痛タンホヽ陰干一握塩
一ツカミ霜ニシ塗ル　○歯ノ浮ニ葉陰干末ヲ付ル　○乳腫タンホヽ花煎服
○乳腫タンホヽ煎汁敷　○乳腫タンホヽ花葉陰干タイフヒサハコベ汁調敷之
○乳腫タンホヽ陰干金銀花煎服　○毒虫螫獣咬ー花葉研酢調付

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

センボンヤリ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

セニボニヤリ
山春ノサウ

ムラサキタンポ

大丁草 蒲公英ノ葉解 時珍曰有紫花者名大丁草
出太行王屋諸山陳州亦有 名鬼金草
山中陰地ニ生ス葉ハ圓ノ厚メ大リナノ背ニ白毛アリ花小クシ茂紫色
内浅紫外紫赤色又白花ノモノアリ花後褐萎ヲナシ帚形ノ如シ莖ニ
白毛アリ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ニガナ

トクワカ 和多郡久村

黄花菜

[釋名] 黄花菜 其花黄其氣如瓜故名

道傍ニ多ク生ス葉潤サ五六分長サ二三寸切レバ白汁出葉色淡緑ニシテ白ヲ帯ブ変葉最多シ葉邊岐多クノメ鋸刺アルモノアリ冬春ハ葉紅色ニ変スルモノアリ

○又曰大ニメ長莖ナルモノアリ

○又曰葉ニメ軟刺ナルモノアリ

○又曰葉ニメ軟刺ナルモノアリ

○又中心紫色ナルモノアリ

○又紫黒黙アルモノアリ

皆一根ニ叢生シ春臺ヲ起ス高サ一尺餘葉互生ス枝又ヲ分チ花ヲ開ク黄瓣黄心大サ四五分

一種海濱名上ニ生スルモノヲイワニガナ キビナギクトヲ

一種路傍ニアリテ叢生スルモノヲツルニガナトヲ

ニガナ一種千葉ノモノアリ
一種淡紫花ノモノ總州小金原ニアリ又信州ニモアリ
淡紫花ノモノヲ タカサゴサウ 江戸名崎

○嚼咬ニガナ陰干末ヒネリカケル○又方ニガナ汁數滴
汁点ス ○クサー霜香油ニ調塗ケバカハカズ ○ムナムシ——搗丸

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

スイラニ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

スイラン
サハニガナ

ブウブノチ 備前
オホニガナ

トンボノチ 同
ブウブノチ、 勢州

黄花菜一種
山野水湿地ニ生ス、細長葉叢生シ中心茎ヲ抽キ高二三尺、細葉互生シ
梢ニ枝ヲ分チ霜降前後黄花ヲ開

キゴナギク

和名 ワダ 和名母

キミナギク 紀州
イワヂシヤ 江戸

イワニガナ

黄花菜 一種
海濱石上ニ生ス葉厚クメ白色ヲ加花數多ク開ク

熊野浦 勢州志州三州都ヲ海濱石間ニ多生ス相州七里濱 知多郡木嶌

ハモニガナ

葉厚ク
白色ヲ帯ブ
味苦シ

葉間枝ヲ生ジテ霜降後ニ至テ黄花ヲ開ク

アゼトウナ
淡州ノ産

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

アゼトウナ

ミラキナ 蝦夷

シラキナ
蝦夷アツケシ産

厚ク背白

ツルニガナ

春多後ノ畫

ツルニガナ　チニハリ　尾州中根村　サギノアシ　備前
ニゴヤシ　薩州　千ゲサ　白汁アル故名　トニボノチ、北白汁ニテトボ
ミ、ヤイ　耳門大熱メ疼テ聾トナルモノアリ此生汁ヲ採テ石菖根ヲ煮滴ヲ耳中ニ入レハ
疼止ム妙ナリ故ニ耳明草ト云　ヲ養故名

剪刀股　救荒野譜

田野許陌ニ多ク生ス根細ク白クメ長ク土中ニ蔓延ス一莖ヅヽ土上ニ出ヅ
叢生ス形黄瓜菜ノ如シ切レバ白汁ヲ出ス立夏前後黄花ヲ開ク形
蒲公英ノ花ノ如高サ五六寸根ヨリ直ニ出テ一二花ヲ開又コユルモノアリ
莖モ長ク枝アリ少シ花ヲ開クモノアリ味甚苦シ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

ツルムラサキ

ハマニガナ　　イチヤウグサ

剪刀股一種

海邊沙地ニ生ス　根ハ沙中ニ長ク引キ一葉ツヽ處々ニ出　葉形圓ニシテ杏葉ノ如クナル或ハモミヂ葉ノ如ニノ厚ニシテ又異形ナルモノ多シ

ボウフノヲバ　志州国府

ツルムラサキ　ミルナ 改名 ユデルトミルノ如クニナル　加良阿布比 輔仁本草

落葵　紫草 食物本草同名アリ　紫果 廣西通志

藤蔓子 丹鉛録　藤緑子 本經逢原　藤莙薘 呉氏食物本草

蘩葵 授時通考　浮藤菜 漳州府志　蟳菜 同上

藘 正字通俗字也　蕗 同上悪ミ甘草モ蕗トモ云

架菜子 物理小識　胡胭脂 食物類

釋名　藤葵 爾雅　藤葵 食鑑　藤菜 綱目

天葵 別録　蘩露 同　御菜 俗

燕脂菜 志曰俗呼為胡燕脂　時珍曰落葵葉冷滑如葵故得葵名釋家呼為御菜亦曰藤兒菜一名承露其葉最能承露其子垂垂亦如綴露故得露名而蔠落二字相似疑落字乃蔠字之訛也案考工記云大圭終葵首也注云齊人謂椎曰終葵圭首六寸為椎然則此菜亦以其葉似椎頭而名之乎

輔仁　兼露 陶景注　遂藤 兼名苑 按藤字無所攷

自生ナシ春種ヲ下ス生出事遅シ蔓草ナリ葉ハ円尖ニシテ莧ノ葉ノ如ニシテ厚ク光リアリ淡緑色互生ス藤蔓長シテ草木ニ纏フ夏ノ末葉間ゴトニ穂ヲ出シ圓小花ヲ綴ル白色ニシテ頭ニ五瓣アリ粉紅色漸ク大ニナリテ実トナル緑色ニシテ圓扁大サ三分許堅ニヒダ多シ後紫色ニ変シ熟シテ黒色トナル此汁ニテ物ヲ染レバ深紫色ニシテ美ナレトモ久シカラズシテ色変ズ實中ニ圓核アリ大サ一分余甚硬シ霜後苗根共ニ枯ル

○霜降ノ頃実熟シテ黒シ　○此実ノ汁餅ヘツキコメバ紅色ノ餅トナル

○俗ニ痘毒ヲ觧トイフ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

ドクダミ

尾州海東郡鷲江村ノ西大野村ニ自生アリ

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

ドクダミ 新校正　ミブキ 和名鈔故名 根味甚ミブミ　ジウヤク 江州上野 熊野 馬ノ菜ニ用テ十品ノ薬能アリ

故ニ十薬ト云　ドクナベ 越前　ホトケグサ 雲州

ホウズグサ 豫州 阿州　ニウドウグサ 筑前　イヌノヘドグサ 備後

チゴクグサ 勢州 尾州海西郡　チゴクソバ 奥州會津　ロクドウグサ 筑前

ヘビグサ 常州　ケイセイグサ 常州　ドクグサ 上野

ドクマクリ 佐州　ミブトグサ 江戸　ミビトバナ 駿州

ミウヲウサウ　ミゴクバ 野州田光　マムシクサ

ドクダメ 小瘡ヲ患ル者此草ヲヌレバ疼ヿ甚シ而癒ユ 村民ツチコエニ入テ小瘡ヲ生ヲツエカブレト云 蕺ノ生汁ヲ傳レバ疼テイユ是ヲ毒疼ト云ドクダミハドクイタミナリ或曰ドクダメト云フ

ヲドクダミ 濃州洞戸　ドクマクリ 尾州知多郡　ウミノミタ 知多郡名和

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

蕺

菹菜 通雅
孟菜 同上
戹菜 同上
臧乙 鄉藥本草
天蕎麦 捻嚢随筆

釋名 葅菜 恭
輔仁 岀茄 兼名苑

菹香 北戸録
葅菜 同上
孟娘菜 同上
筆管菜 訓蒙字會
土茄 文選章句
魚鯹草 蕺字段公路北戸録作蒩音戢秦人謂之菹子菹蕺音相近也其葉䐈氣故俗呼為魚鯹草

岑菜 正字通
娘菜 同上
姜孟芽 同上
龍鬚菜 同上
紫背蕺 世医得効方

蕺目録ニ蕺菜ニ作リ本経逢原ニ蕺草ニ作ル 此草隨地皆アリコレヲ除テ治シ難シ春舊根ヨリ苗ヲ生ス高サ七八寸葉互生ス形圓尖ニシテ厚シコレヲ切ハ臭氣甚シ夏月前後莖上ニ花ヲ生ス白色四瓣二瓣ハ大ニシテ二瓣ハ小シ内ニ黄蘂圓ニ簇リテ秋海棠ノ花ノ如シ又七八瓣ナル者千瓣ナルモノアリ又葉ニ紅白班アル者アリ共ニ秋後苗枯ル 又曰大坂ニテハ是ヲユテ出シ臭氣ヲ去テ食用トスト

集解 五蕺ハ蔓草類ノ赤地利ナリ

國華須知 天明年中河内国ヨリ赤花ノモノ出奇品也駿河国甲斐國人飯ノ上置ト雖常ニ食味甘シ但シ小毒アリ 和流ノ馬医博樂馬ニ用テ十種ノ能アリ故ニ十薬ノ名アリ 馬ノナヒラニヨシ

主治 痳癬ニ効アリ亦瘢毒骨痛ニ用 小兒頭瘡便毒横根痔漏淋疾ニ煎用

千金方藥注 莖ニ水銀ヲ含ム此実瘡ヲ截ルニ用ユ又耳中腫痛ニ生根ヲ纏ニテクハリ耳中ニ挿ム即愈ユ又脱肛ニ根ヲ煎メ徐々ニ洗神効アリ又根莖葉ヲ厠上ニ置ケバ糞蟲生ゼス

○陰門腫痛 蕺菜ユキノシタキランニ草霜香油調敷 ○蛇入陰戸ー煎服
○疔ドクダミ搗爛敷 ○癰疽蕺菜蓮葉繁縷水煎洗 ○蟲歯ヲスクニ蕺菜夏ハ葉冬ハ根ヲ歯ノ根ヘサス ○漆瘡蕺搗汁敷 ○小世瘡蕺菜煎洗
○聤耳蕺菜汁點之 ○脫肛蕺菜煎ダンゴル ○肥癬蕺菜煎ダンゴル ○諸瘡疼痛蕺菜霜香油調敷 ○ハミリクサ蕺菜搗爛搽或霜酢調敷

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』　請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『本草綱目紀聞』 請求記号 W391-21　ガラス使用